

つづく
つづく。

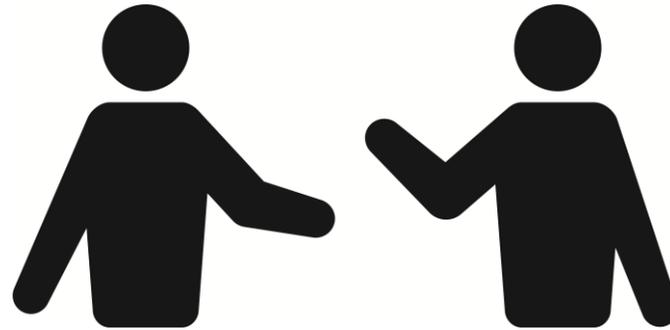
あ・えーるテラス利用者の「**やってみたい**」「**できたらいいな**」が地域を動かす力になった事例

└ 定期的に利用者の「**やってみたいこと**」を話し合う企画会議を開催。

かくれんぼがしたい！

スイカ割りがしたい！

パン食い競争
がしたい！



テラス利用者

社協職員



いいね！
楽しそうだね！



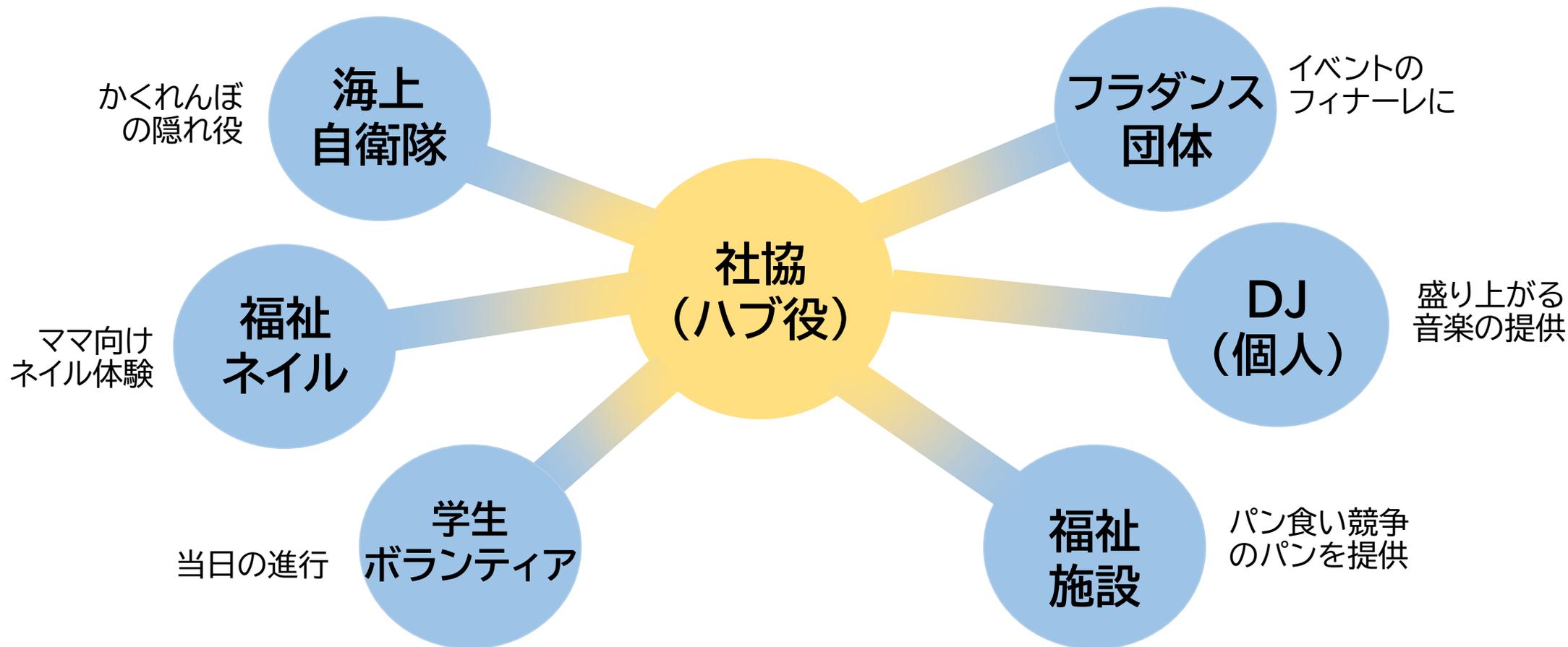
どうやって実現させる？
みんなで考えよう

社協職員は、「やってみたい」を肯定し、利用者と対話を繰り返しながらアイデアを具現化していく
(自己肯定感の高揚)

2 (2)取組の成果 ・参加支援と地域づくり 【事例の紹介】



社会福祉協議会がハブ役となり、「やってみたい」の実現に向け、活動団体・個人・法人・学生ボランティア・海上自衛隊等とマッチングする



「福祉」という看板では集まらない人材が、イベントを通じて地域活動の新たな担い手(プレイヤー)になる



みんなでかくれんぼ！ ～パン食い競争・かぼちゃ割りレースで盛り上がる～

日 時：令和7年11月8日(土)10:00～12:00
場 所：柏ふるさと公園
参加者：柏市在住在学の小学生とその保護者

- 海上自衛隊員とかくれんぼ
- 障害物レース（かぼちゃ割り），パン食い競争
- ママ向けネイル体験，DJブース
- フィナーレはみんなでフラダンス



あ・えーるテラスという「守られた空間」にいた利用者が、**地域に飛び出し**，イベントで**主役になった瞬間**。





参加支援・地域づくりが生んだつながり

テラス利用者
(発案者)

【自己肯定感の向上】

「自分がやってみたいことが叶う」「自分が主役になれる」という経験が、次の社会参加への自信につながった

協力団体・個人
(支援者)

【横のつながり】

「楽しそう，面白そうなこと」に手を貸した結果・経験が，福祉課題の解決につながった

一般参加者
(地域)

【多様性との接触】

障害の有無や世代を超えて共に時間を共有することで，自然な形で「地域共生社会」を体験した